

伝統は、伝説へ。

令和8年度 新潟県立中央病院群臨床研修プログラム

- マッチング定員 **10名**
(うちイノベーター育成臨床研修コース枠 1名)
- マッチング外定員 **2名**

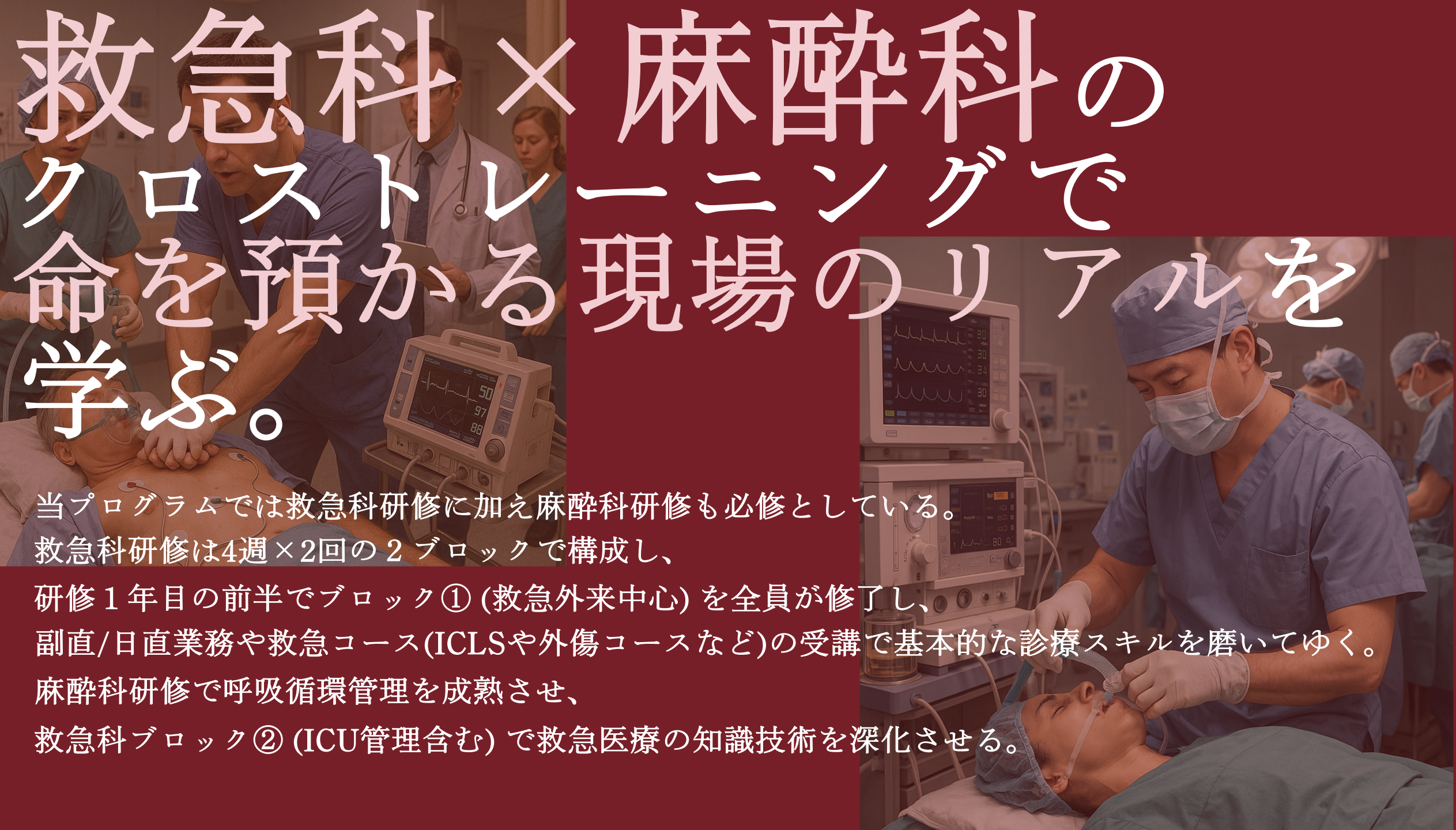


100_{km}以内に大学病院がない 限界地域にある 救命救急センター。

大学病院が、そばにない。
ドクターヘリは、雪国の悪天候では飛んでくれない。
地理的孤立が、この病院の総力を高め、
診療科どうしの敷居を低くした。

「一丸」という言葉がよく似合う。
人口25万人の上越医療圏の最後の砦として、
決して諦めないのだと。





救急科 × 麻酔科の クロストレーニングで 命を預かる現場のリアルを 学ぶ。

当プログラムでは救急科研修に加え麻酔科研修も必修としている。
救急科研修は4週×2回の2ブロックで構成し、
研修1年目の前半でブロック①(救急外来中心)を全員が修了し、
副直/日直業務や救急コース(ICLSや外傷コースなど)の受講で基本的な診療スキルを磨いてゆく。
麻酔科研修で呼吸循環管理を成熟させ、
救急科ブロック②(ICU管理含む)で救急医療の知識技術を深化させる。

救急車5,512件/年、だからこそ、 当直体制は完璧に安心。 24Hオンデマンド画像読影。

1年目

副直あるいは日直を週1回(先輩に教わる)
この間に救急科研修①を修了する

当直あるいは日直を週1回
(先輩に教わる/同期と学ぶ)

2年目

当直を週1回 + 日直を月1回
(後輩に教える/同期と学ぶ)

当直あるいは日直を週1回
(後輩に教える/同期と学ぶ)

救急外来での屋根瓦式指導と救急科研修/救急コース受講を通して、段階的に、着実に成長できる。

知られていませんが、実は、
成績上位常連。

基本的臨床能力評価試験(GM-ITE®)

2022年度 10位/475施設

2023年度 10位/457施設

2024年度 30位/453施設

外科系医師のイメージが 一新されるでしょう。

外科

整形外科

心臓血管外科

小児外科

呼吸器外科

脳神経外科

形成外科

泌尿器科

優しい指導医という謳い文句は古いらしいが、優しいのだから仕方がない。
県内トップクラスの脳血栓回収術や最新鋭の手術支援ロボットを用いた整形外科手術も経験しておきたい。3次救急病院ならではの多彩な症例と、当院自慢の病理診断科との強固な連携や豊富なカンファレンスで、外科医として厚みのある臨床能力が磨かれる。

あこがれの内科医が必ず 見つかるでしょう。

呼吸器内科

血液内科

内分泌代謝科

脳神経内科

消化器内科

腎膠原病内科

循環器内科

県内でもいち早くグループ診療制を築いた当院の内科は、働き方改革のパイオニアだ。
Generalismをもった内科医は、ベテランも若手もとにかくよく働き、よく教えるのが
特徴。忙しいのに、なんだかいつも楽しそうだ。無論、連携は手のもの。

小児産婦マイナー科も 1年目から研修可能。 進路に合わせて柔軟なプログラムを 提供します。

小児科

産婦人科

耳鼻咽喉科

眼科

皮膚科

放射線科

病理診断科

精神科

※院外連携先

共通するのは、研修医が主体となって研修できる環境。
地域中核病院ならではの充実した症例経験が圧倒的魅惑。診療科が揃っているので進路選択に迷う人にもオススメ。研修1年目の早いうちに関心のある非必修科を研修することで、納得のいく進路選択ができる。「読影道場」と称される放射線科研修は、短期での画像読影能力向上が叶う名物研修だ。

総合診療に地域研修、 やるならここで。

精緻な臨床推論と全人的医療で、
重症/複雑困難事例にも臆せず対応する。
地域研修前に総合診療科で外来/病棟診療
の基礎を叩き込み、地域研修連携施設との
強力タッグでプライマリ・ケア診療に
強くなる。地域を診る目を養うならここで。

総合診療科

新潟県立妙高病院

山

間部の地域医療。
冬はスキーリゾ
ートで外国人診療も
経験できる。

新潟県立柿崎病院

海

に近い高台に位置す
る地域密着型病院。
多職種連携に強い職場
でのびのびと研修
できる。

上越地域医療 センター病院

要

となる自治体立の
地域密着型病院。
在宅医療や緩和ケアも実
践する住民に敷居の
低い病院。

滋賀家庭医療学
センター

弓削メディカルクリニック

聖

地と称されるこの
施設でホンモノの
指導医にホンモノの
家庭医療を学ぶ。

新潟県立十日町病院

雪

に覆われる地域。
院内救急ステー
ションは圧巻。ホス
ピタルアートの
実践あり。

チームメンターシップ。 当院独自のメンター制度が 研修生活を伴走支援します。

VUCAの時代で医師のキャリアは多様になった。
悩み、迷うことは素晴らしいこと。
大切な医師人生のはじまりに、進路選択は、焦らなくていい。
若きメンター達が研修医に寄り添い、不安を和らげ、
個の強みとキャリアをサポートする。



MENTOR
NIIGATA PREFECTURAL
CENTRAL HOSPITAL

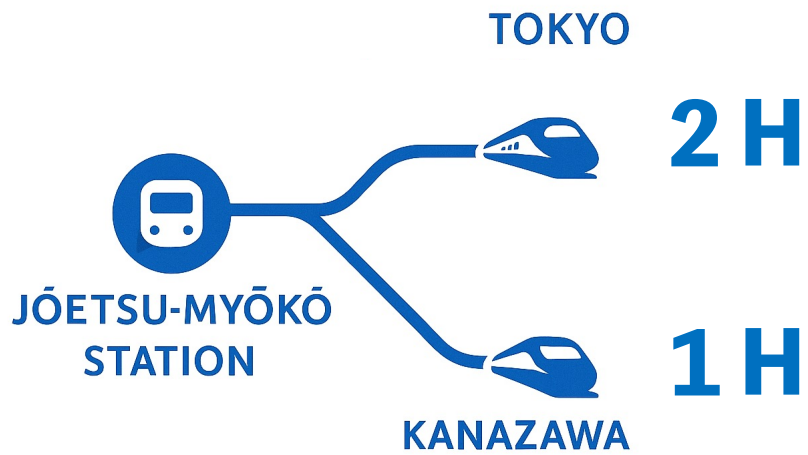
自慢の、 レジデント・デイ。

これからの時代を生きる医療者に届けたい珠玉のコンテンツは、
全員集合でこの日に学ぶ。
レジデント・デイが開催された週末は、
全員当直フリーで研修医旅行へ行ってもらっちゃい。
そう、この病院全体が、研修医の自由で先進的な学びを全力でサポートしているのだ。



海に山に桜。住環境も
欲張っていい。

上越妙高駅から10分、 新幹線で東京 2 時間。



時間のせいで、距離のせいで、
行きたいところ、会いたい人を諦めない。
学びの場は、あちこちにあるのだから。



性別も、派閥もなしの、 のぼり坂。

※年度新採用研修医数

12

10

8

6

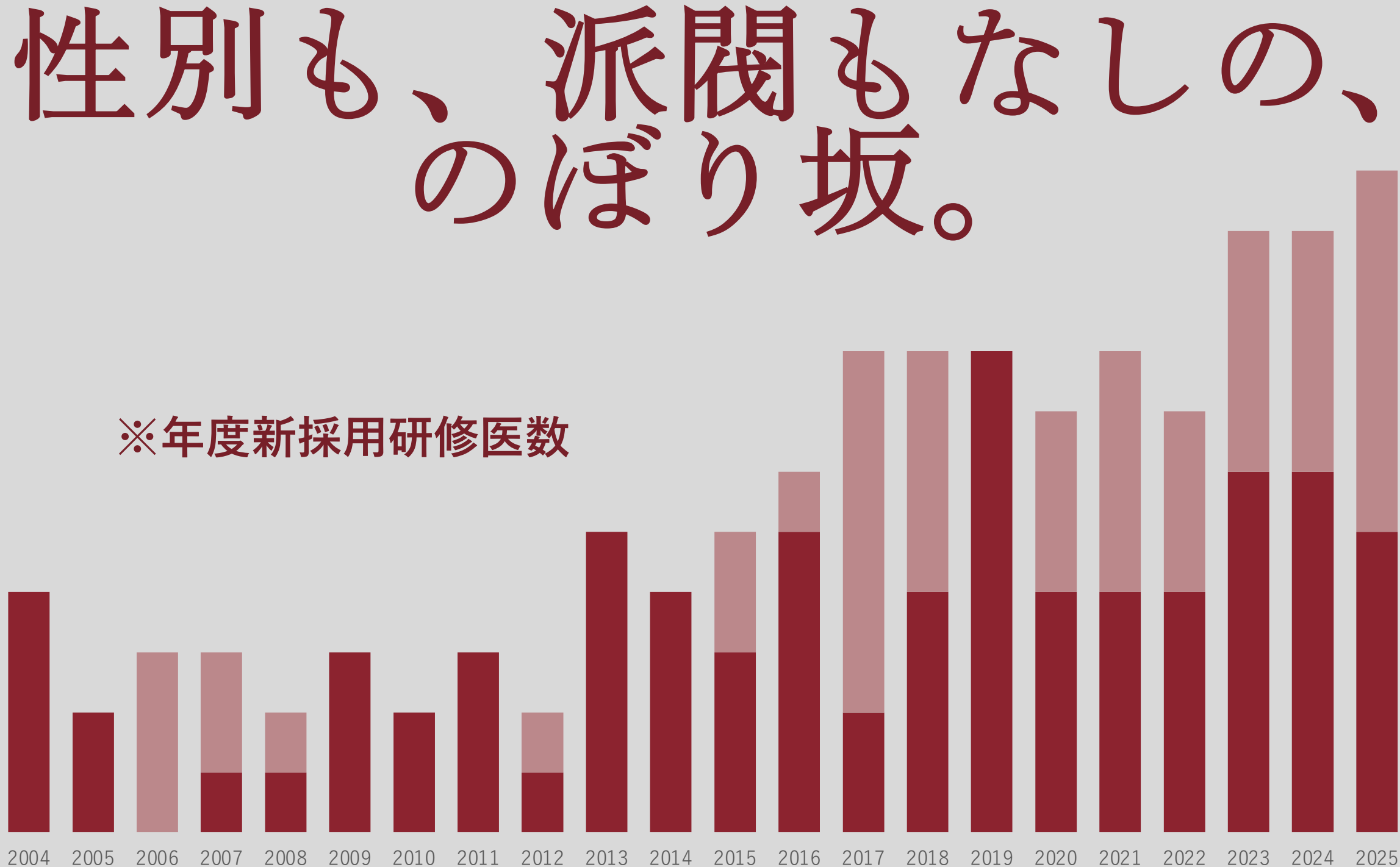
4

2

0

女性
男性

2004 2005 2006 2007 2008 2009 2010 2011 2012 2013 2014 2015 2016 2017 2018 2019 2020 2021 2022 2023 2024 2025



あたたかい、研修風土は、
研修医のみんなこそが
作り上げたもの。

同僚や他職種と助け合うのは当たり前。後輩を指導するのも当たり前。
医療がチームで行うものだ、私たちは、よく、わかっているから。
恩送りは、きっと、巡り巡ってたくさんの患者を救うのだと思う。

徹底した心理的安全は、
みんなの挑戦を後押し
するためにある。

／あなたの小さくて大きな希望と挑戦を、新潟県立中央病院は総力で応援します。／

プログラム責任者 : 木原 好則 (放射線科/教育研修センター)
副プログラム責任者 : 古川 俊貴 (総合診療科)
手塚 敏之 (脳神経内科)
木島 朋子 (総合診療科/教育研修センター)

＜連携病院・連携施設＞

- ・新潟県厚生農業協同組合連合会 上越総合病院
- ・新潟県厚生農業協同組合連合会 糸魚川総合病院
- ・上越地域医療センター病院
- ・新潟県立柿崎病院
- ・新潟県立妙高病院
- ・新潟県立十日町病院
- ・新潟県立新発田病院
- ・新潟県立がんセンター新潟病院
- ・新潟県地域医療推進機構 魚沼基幹病院
- ・独立行政法人国立病院機構 さいがた医療センター
- ・医療法人 常心会 川室記念病院
- ・医療法人 高田西城会 高田西城病院
- ・医療法人 滋賀家庭医療学センター 弓削メディカルクリニック
- ・上越保健所（上越地域振興局健康福祉環境部）
- ・新潟県福祉保健部
- ・新潟大学医歯学総合病院
- ・富山大学附属病院